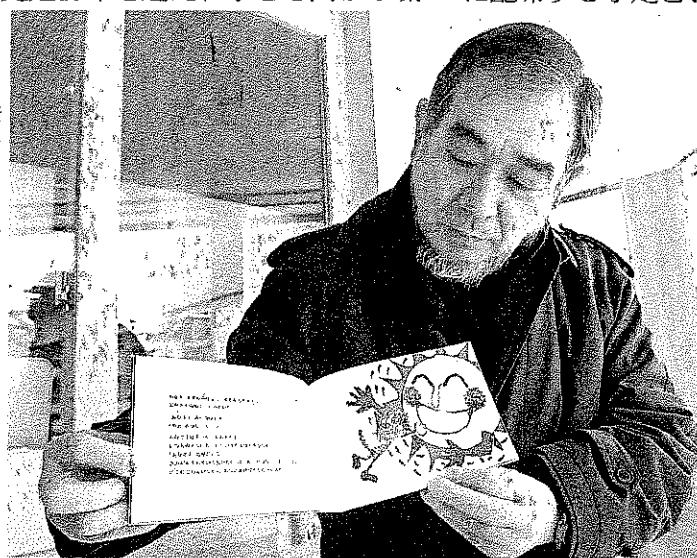


2011年3月15日 京都新聞 21面

市民参加で太陽光発電装置の普及を進めているNPO法人「きょうとグリーンファンド」(京都市下京区)が発足10年を迎える、子ども向けの環

境教育用の絵本を作った。節電や自然エネルギーの大切さを学ぶ内容で、京都市内の幼稚園や保育園などに配布する予定という。



## 普及進める京のNPO 10年

発電分は寄付してもらつて、人材開発機構(伏見区)に制作を依頼し、蓄電池を使って暗闇で光る証を受け、これまでにページもある。

京都市や城陽市の保育園など計15カ所に取り付けた。

絵本は、活動をよりドに寄せられた市民の寄付は計約1480万円。国からの補助金や

同アンドは、市民から寄付金を受け、府内の公共性の高い建物を対象に太陽光パネルを設置している。設置後は「おりさま発電所」として地域での環境教育の拠点に活用、余剰エネルギーの大切さも伝えていている。地域公共広く知つてもらおうとは一多くの人に意識を高めてもらい、環境活動をして遊んでいた。動に取り組んでほしい。太陽光に限らず、自然の良さを感じてい風力や水力、バイオマスの発電機の設置も考えていいきたい」と話している。

板倉豊理事長

設置施設側の自己負担  
金などを合わせ、パネル1基あたり約900  
万円の費用を賄つてい  
る。

園児向け絵本制作

絵本はB6判、20ページ。  
千部作製し、市内の公  
共施設にも配布するど  
う。